

---

# 2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

---

2022年7月29日(金)



栃木銀行

証券コード: 8550

# 目次

## 2023年3月期第1四半期決算の概要

1. 連結決算の概要
2. 単体決算の概要
3. コア業務純益の推移
4. 預金残高の状況
5. 貸出金残高の状況
6. 預り資産の状況
7. 経費の状況
8. 健全性の状況

## 1. 連結決算の概要

- 経常収益は、有価証券利息配当金の増加等により対前年同期比22.8%増加しました。
- 経常費用は、国債等債券売却損の増加等により前年同期比43.5%増加しました。
- この結果、経常利益14億円、親会社株主に帰属する四半期純利益7億円を計上しました。

### ○連結損益計算書(抜粋)

(単位:億円)

	2021年6月期	2022年6月期 (今回)	増減額	増減率
経常収益	105億円	129億円	24億円	22.8%
(内、貸出金利息)	51億円	50億円	△1億円	△2.0%
(内、有価証券利息配当金)	14億円	39億円	25億円	176.7%
(内、役務取引等収益)	20億円	20億円	△0.5億円	△2.4%
経常費用	80億円	115億円	35億円	43.5%
(内、国債等債券売却損)	1億円	36億円	35億円	-%
(内、営業経費)	60億円	57億円	△3億円	△4.5%
経常利益	25億円	14億円	△11億円	△43.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	17億円	7億円	△10億円	△59.0%

## 2. 単体決算の概要

▶ 前述の連結決算と同様の理由により、経常収益117億円・経常利益11億円・四半期純利益5億円を計上しました。

### ○単体損益計算書(抜粋)

(単位:億円)

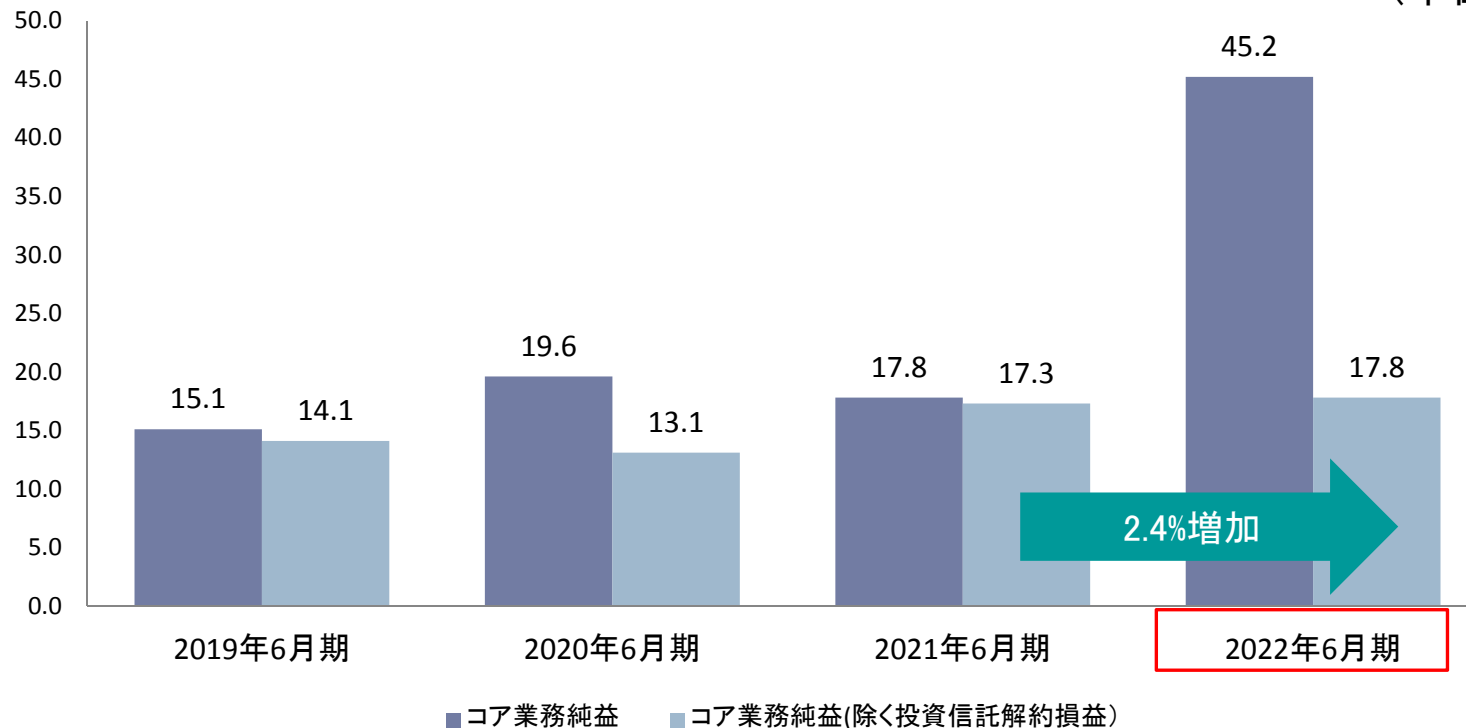
	2021年6月期	2022年6月期 (今回)	増減額	増減率
経常収益	92億円	117億円	25億円	26.2%
(内、貸出金利息)	51億円	50億円	△1億円	△2.1%
(内、有価証券利息配当金)	14億円	39億円	25億円	171.4%
(内、役務取引等収益)	18億円	18億円	△0.5億円	△2.9%
経常費用	71億円	105億円	34億円	48.7%
(内、国債等債券売却損)	1億円	36億円	35億円	-%
(内、営業経費)	55億円	53億円	△2億円	△4.5%
コア業務純益	17億円	45億円	28億円	153.9%
コア業務純益 (除く投資信託解約損益)	17億円	17億円	0.5億円	2.4%
実質業務純益	16億円	9億円	△7億円	△43.3%
業務純益	16億円	9億円	△7億円	△43.3%
経常利益	21億円	11億円	△10億円	△47.1%
四半期純利益	15億円	5億円	△10億円	△64.6%

### 3. コア業務純益の推移《単体》 ～本業の収益は着実に増加しています～

- コア業務純益は、貸出金利息収入や有価証券利息配当金の資金運用収益と、手数料等の役務取引等収益から得られる利益であり、銀行の本業収益力を表すものであります。
- コア業務純益(除く投資信託解約損益)は、経費の減少等により、前年同期比2.4%増加しました。

#### コア業務純益及びコア業務純益(除く投資信託解約損益)の推移

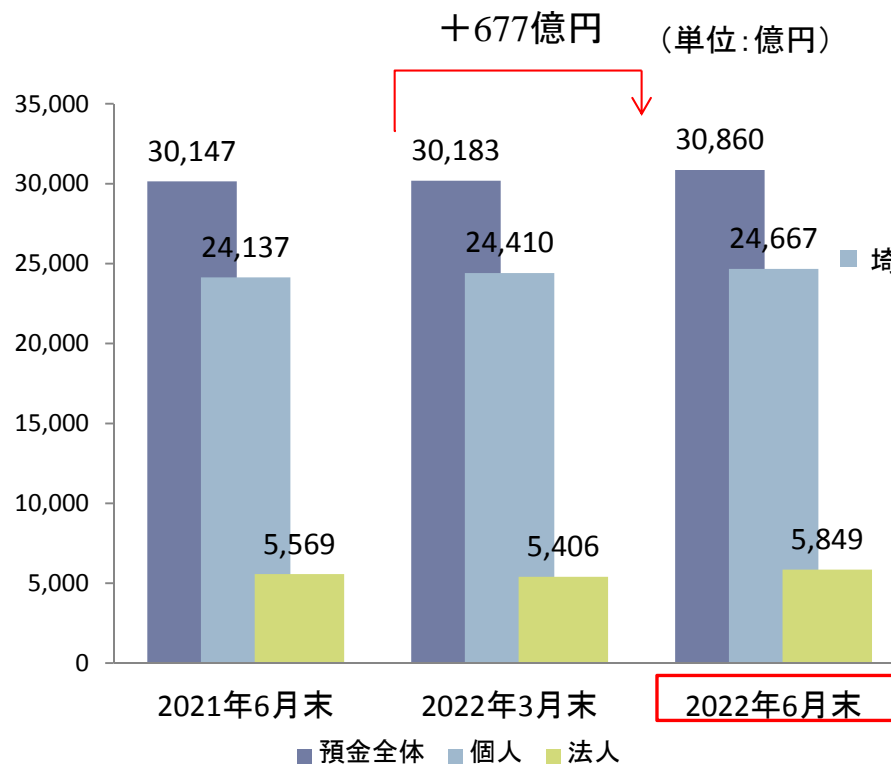
(単位:億円)



## 4. 預金残高の状況《単体》 ～個人預金を中心に増加しています～

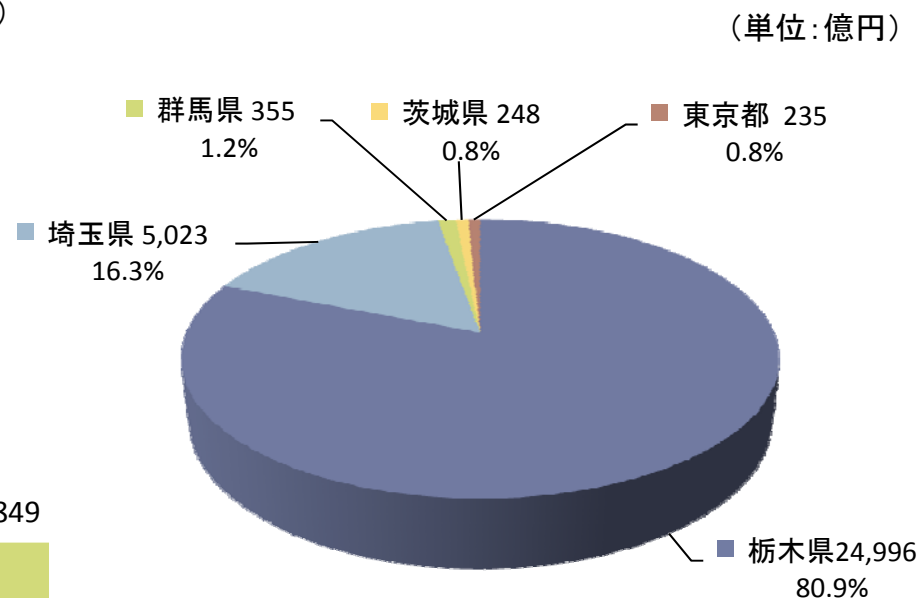
- ▶ 当行は地域に根差した営業基盤を有し、個人預金を中心に預金残高は、2022年3月末比677億円増加しました。
- ▶ 県別の預金残高は、栃木県内のお客さまが80.9%を占めております。

預金残高(単体)の推移



(譲渡性預金含む)

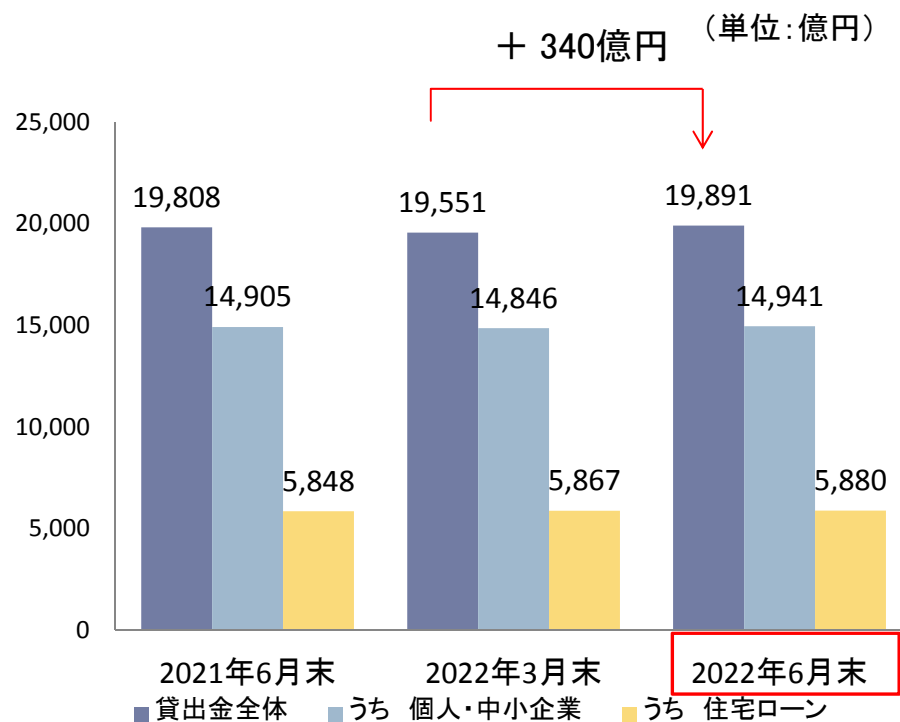
県別の預金残高(2022年6月末)



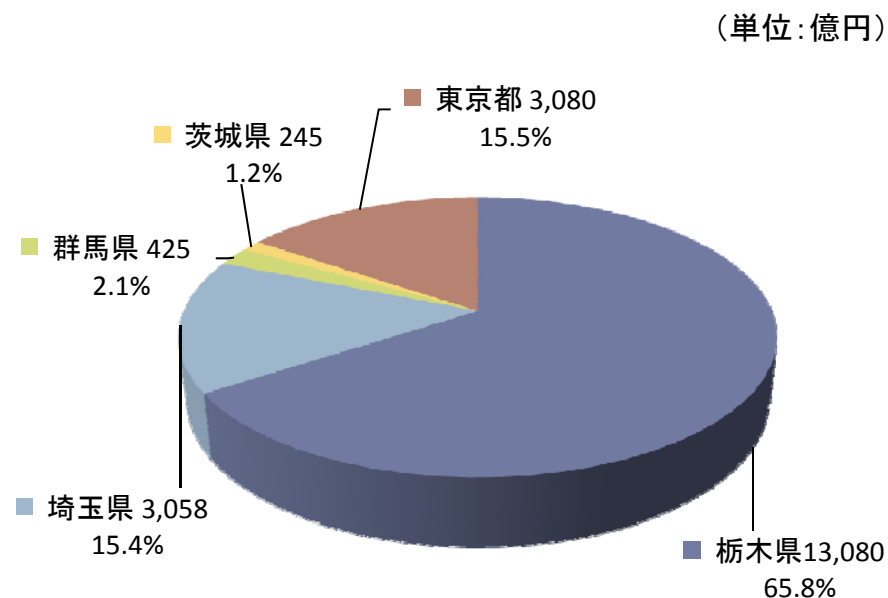
## 5. 貸出金残高の状況《単体》～個人・中小企業へ主に資金供給しています～

- ▶ 貸出金残高は、2022年3月末比340億円増加しました。
- ▶ このうち個人・中小企業向け貸出金の残高は、2022年3月末比95億円増加しました。
- ▶ 栃木県内の貸出が65.8%を占めており、栃木県内及び個人・中小企業向け貸出が中心です。

### 貸出金残高(単体)の推移



### 県別の貸出金残高(2022年6月末)

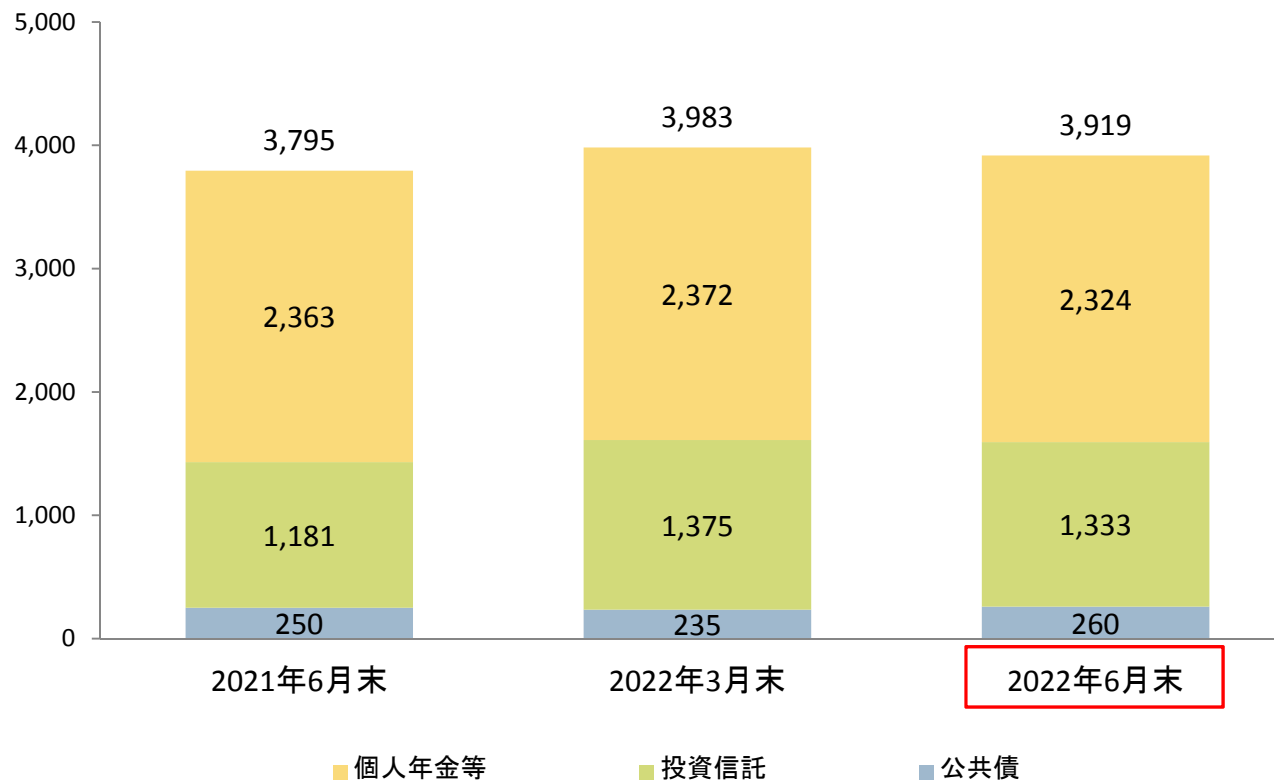


## 6. 預り資産の状況《単体》 ～人生100年時代に向けた資産形成のサポート～

- ▶ 当行は、お客様の将来の資産形成に繋がる「長期・積立・分散」投資への提案等を行ってきました。預り資産残高は投資信託の基準価格の低下による簿価の減少等により2022年3月末比64億円減少しました。

預り資産残高の推移

(単位:億円)

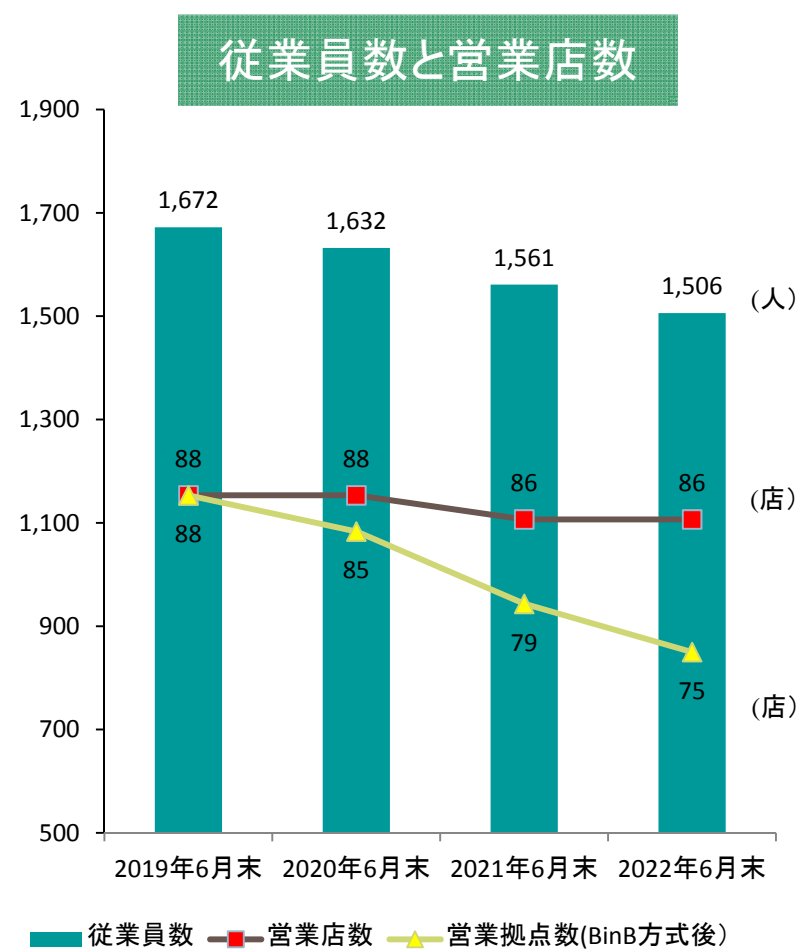
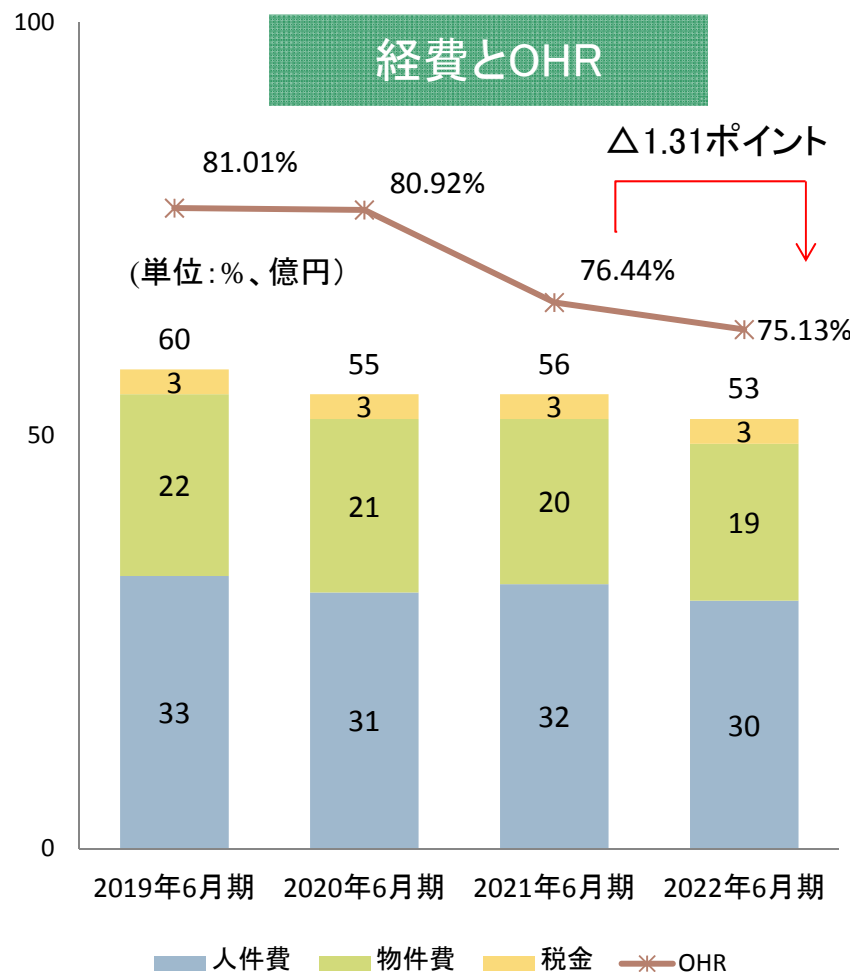




## 7. 経費の状況《単体》 ～持続可能な経営に向けた取組みを継続しています～

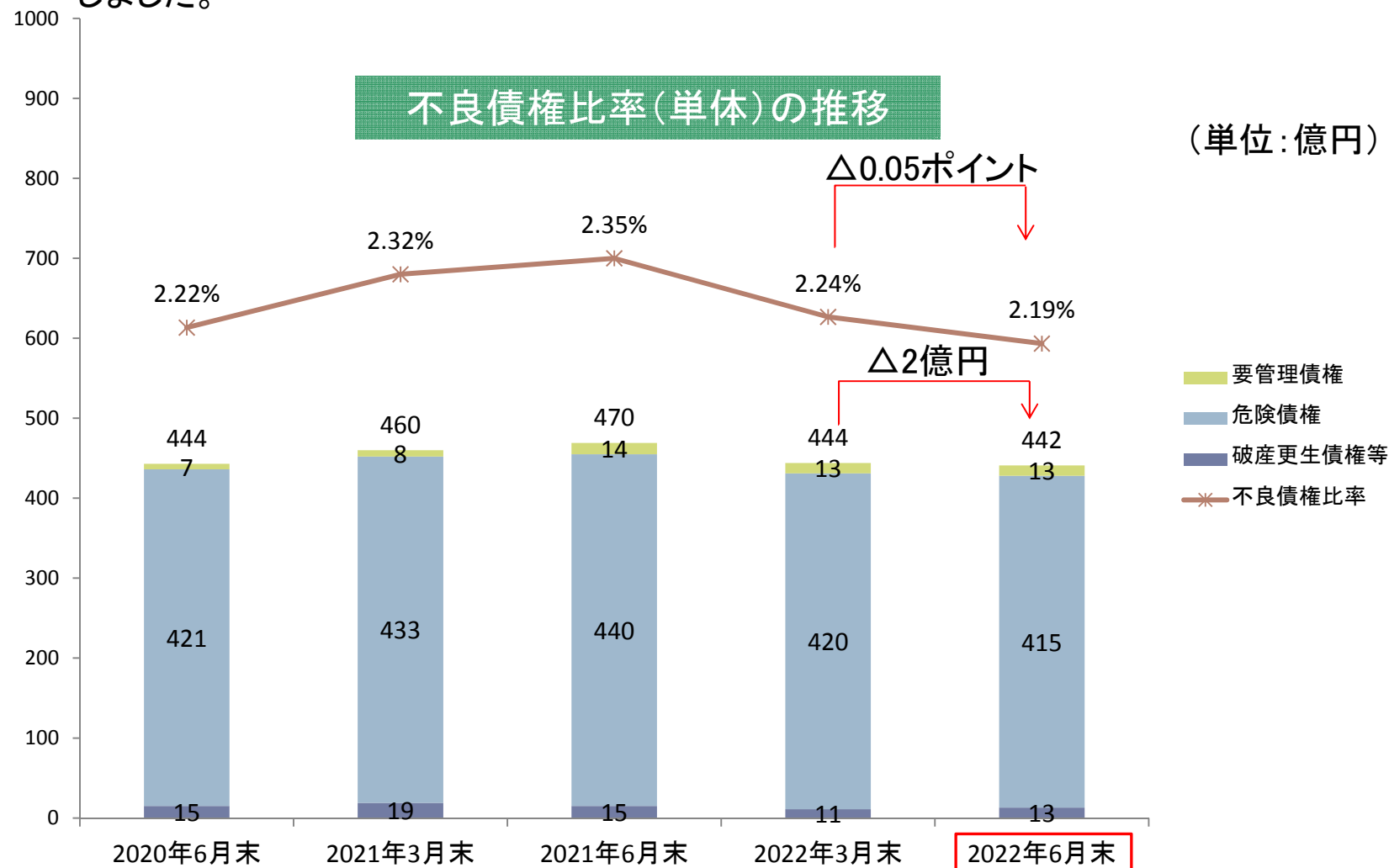
- ▶ お客様を支える持続可能な経営基盤の確立のため、業務の軽量化・効率化・集中化により、当期のOHR(コア業務粗利益ベース)は前年同期比1.31ポイント減少しました。

※OHR(コア業務粗利益ベース) = 経費 ÷ コア業務粗利益(除く投信解約損益) × 100



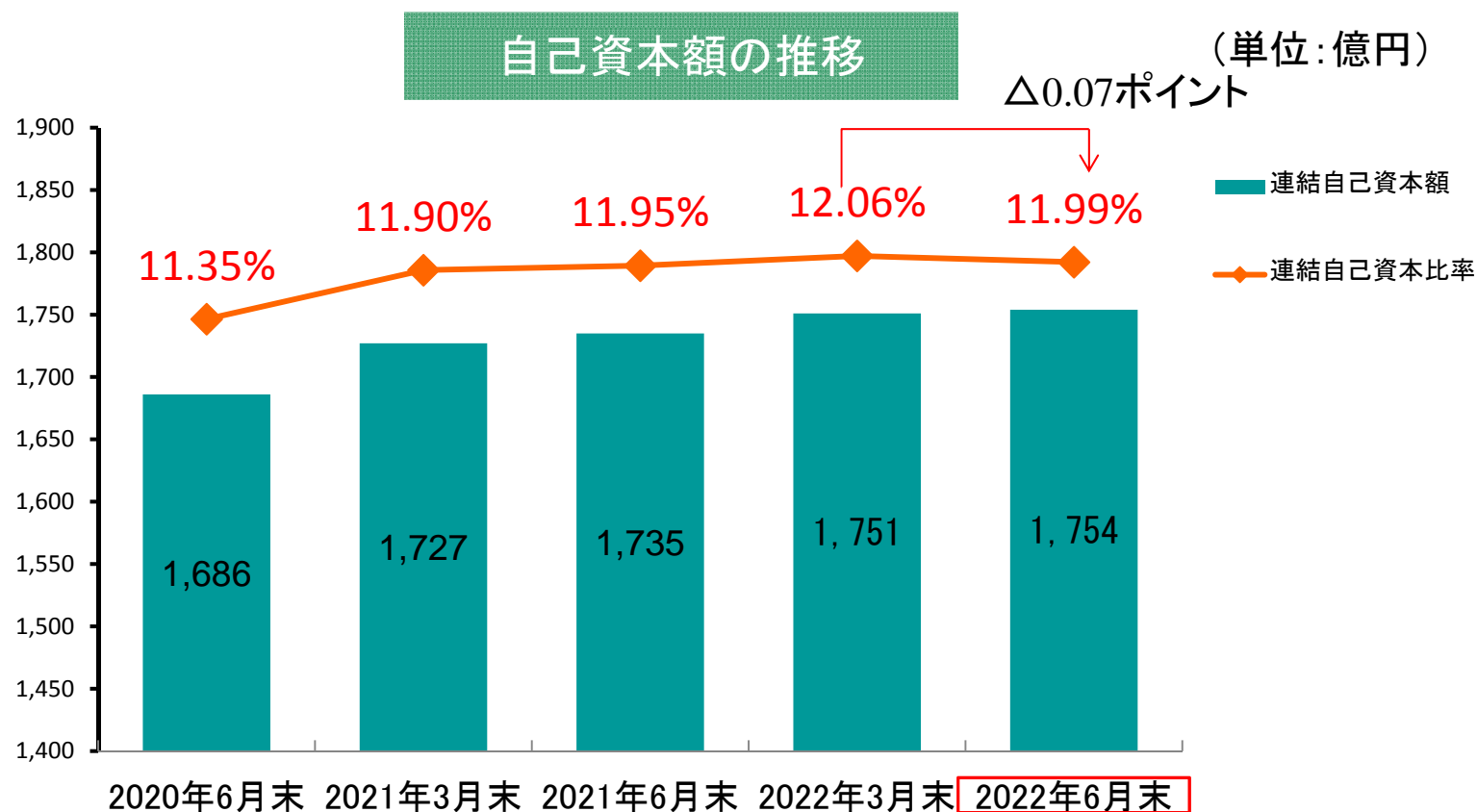
## 8. 健全性の状況《単体》 ～(1)不良債権の状況～

▶ 金融再生法開示債権は2022年3月末比2億円減少し、不良債権比率も同比0.05ポイント減少しました。



## 8. 健全性の状況《連結》 ～(2)自己資本比率の状況～

- 自己資本比率は、「国内基準行」では4%以上、「国際基準行」では8%以上が求められている中、当行は、「国内基準行」として4%以上が求められております。
- 当期は積極的な貸出によるリスクアセットの増加により、連結自己資本比率は2022年3月末比0.07ポイント減少しました。
- 自己資本を活かし、今後も個人・中小企業向け貸出やサービスの提供を行ってまいります。



## 【参考資料】

### 課題解決に強い銀行への取組み

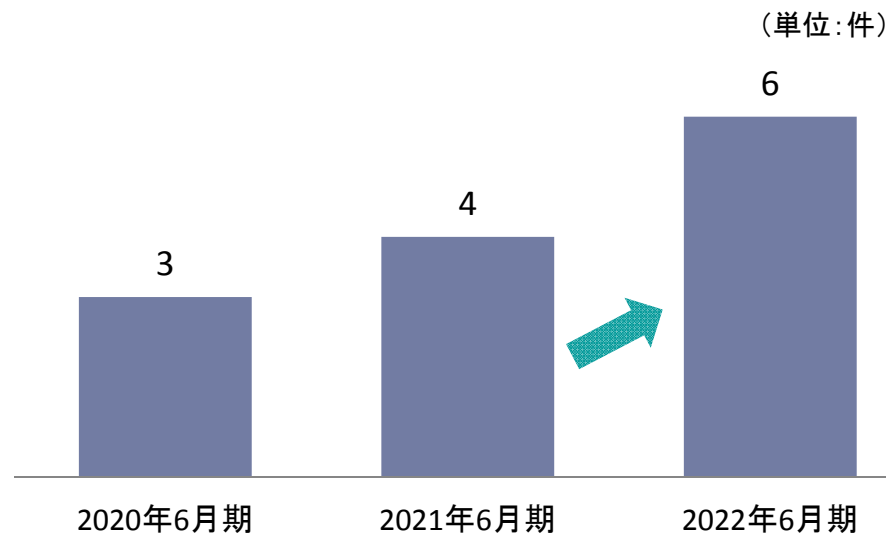
## 1. 課題解決に強い銀行へ《コンサルティング機能の強化》

2020年4月に第十次中期経営計画をスタートさせ、「課題解決に強い銀行」へ進化を成し遂げるため「コンサルティング機能を活かしたお客様への提供価値の充実」「お客様志向を実現するための人材育成」「お客様を支える持続可能な経営基盤の確立」など、お客様の様々な困りごとにワンストップで対応できる「お客様サポート体制」を強化させてまいりました。

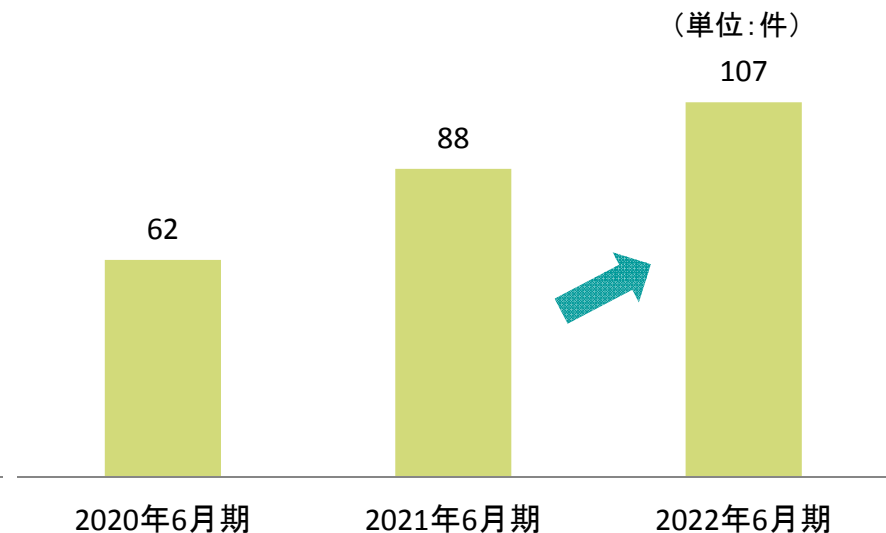
2021年9月には、「とちぎの結び目（地元応援型M&Aサービス）」をスタートさせるなど、事業承継・M&A分野に精通しているコンサルタント及び連携機関と共に、ワンストップで個人事業主や小規模企業のM&Aをお手伝いできる体制を構築しております。

また、ビジネスマッチングを通して、取引先の様々なニーズに対し適切な情報やサービス、ビジネスパートナーの紹介を行っております。

### 《事業承継・M&A成約件数》



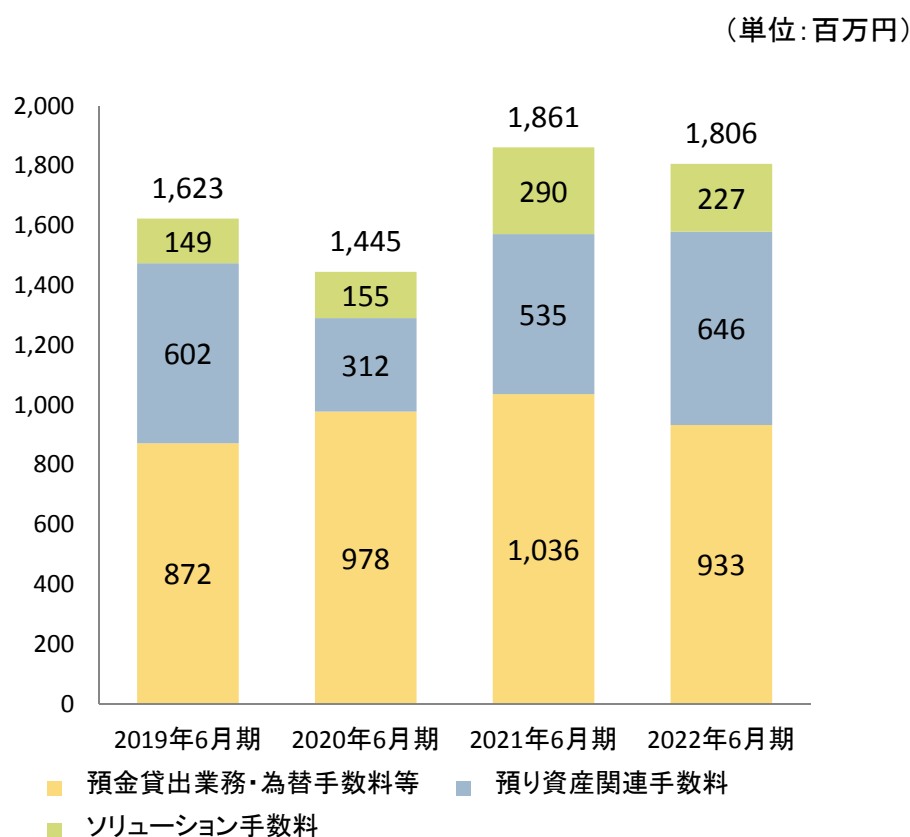
### 《ビジネスマッチング成約件数》



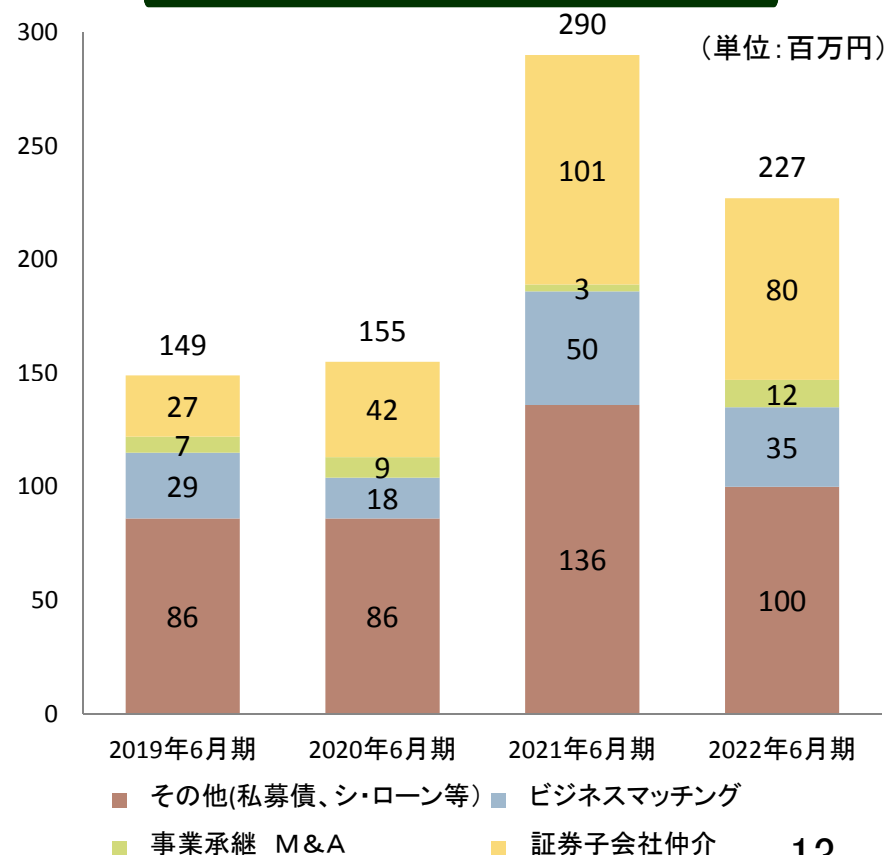
## 2. 課題解決に強い銀行へ《役務取引等収益の推移》

お客様の様々な困りごとにワンストップで対応できる「お客様サポート体制」を強化させてまいりました。役務取引等収益は、預金貸出業務手数料などの銀行業務の他、ビジネスマッチングや事業承継・M&A等に関するソリューション手数料、お客様の資産形成のサポートを行った結果得られる、預り資産手数料等で成り立っています。

役務取引等収益の推移



ソリューション手数料の内訳



### 3. 課題解決に強い銀行へ

#### 《地域企業のSDGs経営支援サービスの取扱い開始》

脱炭素に向けた取組みが社会的に加速するなか、地域経済の担い手である事業者にとってSDGs経営に取組むことは、将来の「ビジネスチャンス」と「ビジネスリスク」を認識し、事業継続性を高める有用な機会となると考えます。当行は、地域の皆様のSDGs経営に向けた取組みのご支援を目的とし、3つのサービスの取扱いを開始しました。

#### 《3つのサービス》

- ①とちぎんSDGs宣言支援サービス  
2022年3月の取扱い開始から6月末時点で449件の申込がありました。
- ②とちぎんSDGsスタートアップローン
- ③とちぎんリーシング SDGs 応援リース

#### とちぎんSDGs宣言支援サービス



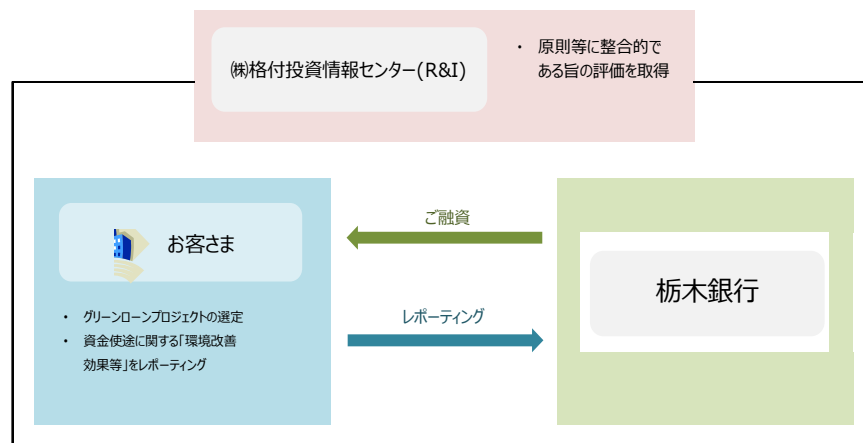
## 4. 課題解決に強い銀行へ

### 《とちぎんサステナブルファイナンスの取扱い》

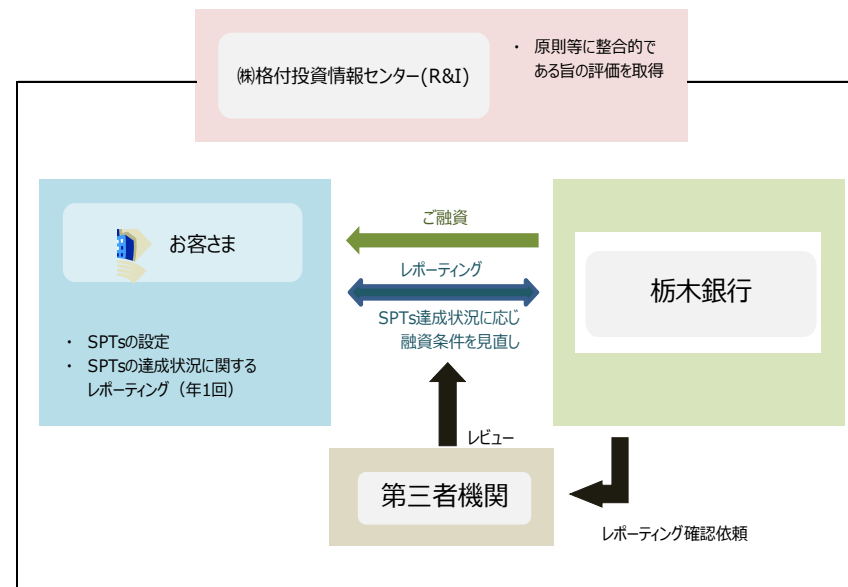
栃木銀行ではサステナブルファイナンス商品として、資金用途をグリーンプロジェクト（※1）に限定した「とちぎんグリーンローン」と、SDGsやESGに関連する取り組み目標（SPTs（※2））を定め、その達成状況に応じて金利を優遇する「とちぎんサステナビリティ・リンク・ローン」の取扱いを2022年7月に開始しました。

栃木銀行は、お客さまのSDGsやESGへの取組みの見える化、取組目標の設定、目標達成に向けた取組みのサポート、そして資金調達までを伴走支援しながら、お客さまとともに環境問題や社会課題等の解決を進め、地域経済・地域社会のサステナビリティ向上を目指してまいります。

#### 【とちぎんグリーンローン】



#### 【とちぎんサステナビリティ・リンク・ローン】



- ※1 グリーンプロジェクト：再生可能エネルギー事業や省エネ設備の導入など、環境面でポジティブな効果をもたらすプロジェクト
- ※2 サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットの略称。お客さまの事業に関連したサステナビリティの改善を目的とした定量的な目標



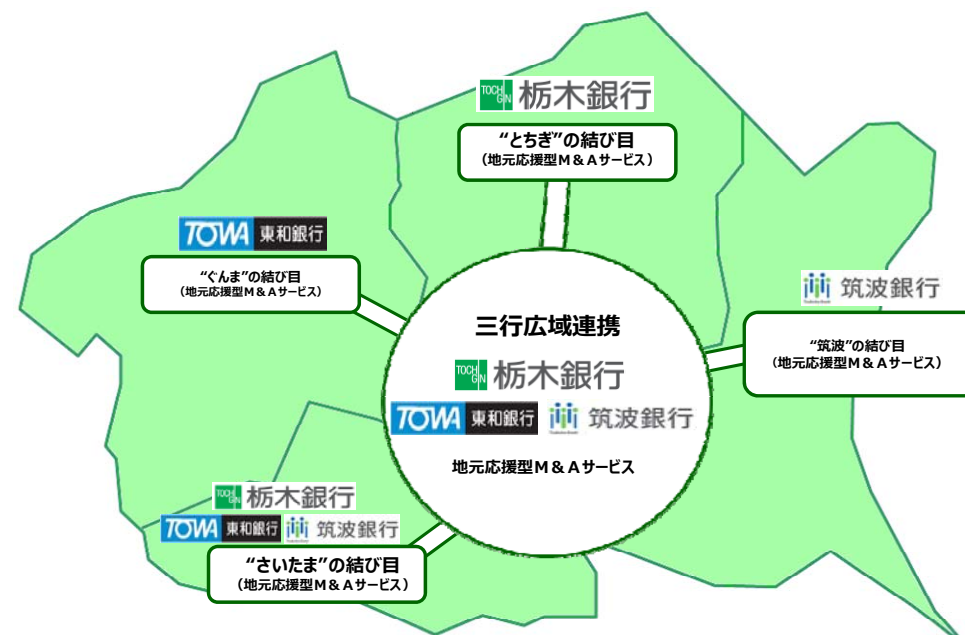
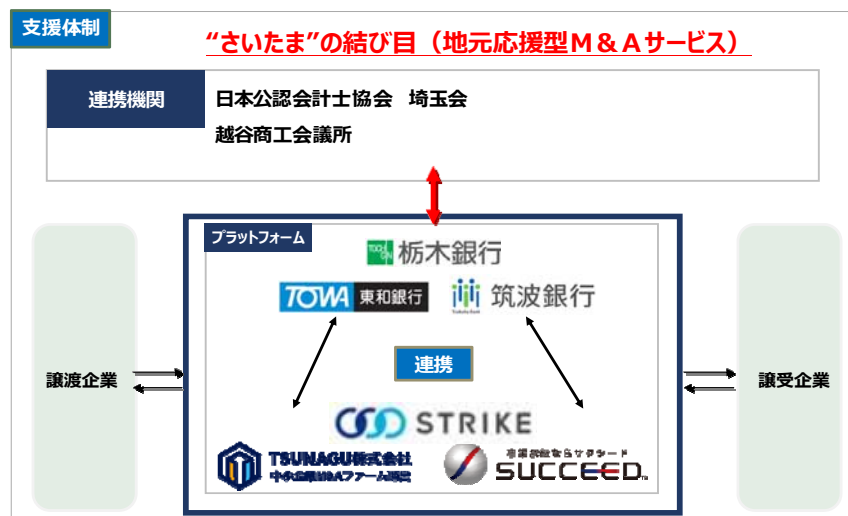
## 5. 課題解決に強い銀行へ

### 《“さいたま”の結び目 創設及び3行による結び目の連携》

栃木銀行、筑波銀行、東和銀行の重複営業エリアである埼玉県についてこれまで以上に広域での業務展開を可能とする目的で、新たに3行共同で主に埼玉県のお客さま向けに「地元応援型M&Aサービス（名称“さいたま”の結び目）」を創設いたしました。

これまで3行が各々で展開してきた【地元応援型M&Aサービスのプラットフォーム】である「結び目」に今回創設した「“さいたま”の結び目」を加えることで、広域での事業承継及びM&A事業の展開が可能となり、お客様のニーズに合ったソリューションの提供を実施し、これまで以上に地域経済の活性化につなげてまいります。

【3行連携による広域マッチング体制】





<本件に関する問い合わせ先>

経営企画部 : 仲田、齋藤、岩本

TEL 028-633-1455

FAX 028-634-3633